

愛のこもった作品で、来場者を魅了

◎第12回きほく作品展

展示物をじっくりと見る来場者たち



「第12回きほく作品展」は10月6日から9日までの間、広見体育センターで開催されました。会場には、町内各保育所、小中学校や老人クラブ各支部、そして各種文化団体等による渾身の作品が集結。工作、絵画、写真、手芸など、さまざまな分野の作品が、ずらりと並びました。

自然と笑みがこぼれる子どもたちの可愛らしい作品や、思わず見とれてしまうほど手の込んだ作品に、来場者たちは「かわいいね」「すごいね」と話しながら、展示された一つ一つの作品を、じっくりと見て回っていました。

大切に育てたお米、大地の恵みに感謝

◎ふれあい農園事業 古代米稲刈り

手刈りで丁寧に稲を収穫



10月6日、泉小学校で、古代米の稲刈りが行われました。このお米は黒米と赤米の2種類の古代米で、泉小学校の児童たちが6月に田植えを行い、これまでに大切に栽培してきました。

まず、児童たちは弥生時代の稲刈りを体験。当時は稲の成長が均一でなかったため、石器を使い稲穂のみを一つ一つ刈り取っていく方法が用いられ、児童たちはその難しさを体感していました。

その後、石器から鎌に持ち替えた児童たちは、ぬかるんだ田んぼに足を取られ、悪戦苦闘しながらも、手際よく刈り取っていました。

奈良山の構造と世界観を読み解く

◎等妙寺ウォーキング

山本先生の話を中心に聞く参加者たち



10月15日、「国史跡 等妙寺ウォーキング」奈良山信仰とその拠点寺院としての姿」が開催され、町内外から70人が参加しました。

今年で5回目となる今回は、日本山岳修験学会理事の山本義孝氏を講師に招き、座学とウォーキングを実施。座学では、「奈良山」の構造と世界観を読み解く」と題して、遺跡の発掘調査のみでは知り得ない「山岳霊場遺跡」としての新たな視点について学びました。

その後、山本先生の解説を交えながら現地を歩いた参加者たちは、中世等妙寺の壮大な世界観に驚いていました。

ぬいぐるみと一緒に絵本の世界を堪能

◎ぬいぐるみおとまり会

ゲームでその物語の世界を楽しむ



「ぬいぐるみおとまり会」は10月8日、中央公民館図書室で行われました。

この日は、お気に入りのぬいぐるみと一緒に、6組の親子が参加しました。楽器の演奏に合わせてたり、ストーリーに沿ったゲームを織り交ぜたりと、工夫を凝らした絵本の読み聞かせで、親子が一緒になってその物語の世界観を楽しんでいました。

おはなし会が終わると、しばしの間大好きなぬいぐるみとお別れ。子どもたちは、誰もいなくなつた図書館で、ぬいぐるみたちがどんなことをして過ごすのかと、想像を膨らませていました。